

○事業所名	インクルー東海教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 24日		～ 2026年 2月 3日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 6名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 19日		～ 2026年 2月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎月実施される職員向けの運動研修を受講することで、利用児に期待出来る効果や発達に合わせた難易度の調整、介助の仕方や応用のポイント等、学ぶことが出来る為、より安全に運動が提供され、翌月への運動へ繋がられる。	運動研修に参加することで、補助の仕方やサポートする為の動きを理解することが出来る。	今後も運動研修を実施し、職員間で理解する。欠席し受けられなかった職員にも内容や補助の仕方等をレクチャーし、共通理解を図る。
2	のびのびと運動できるスペースと、療育(座学)のスペースを分けて活動することにより、子ども達が落ち着いて生活できるよう配慮している。	児発と放デイの活動スペースを分けて個別の課題等に取り組む事で、落ち着いた環境を提供できている。	職員間で定期的に、利用児の様子や現状の意見交換・情報共有のミーティングを重ねながら、支援の内容の向上に繋がるよう努めている。
3	近隣にコミセンや神社・公園があり、虫探しや散歩を楽しんでいる。	新規の利用児に伝えるためにも、避難ルートを確認しながら散歩を取り入れている。	入職した職員にも、早急に避難場所等を把握してもらえよう、実際に避難経路を歩きながら確認等する時間を確保していく。SNS等で投稿し、実施している内容を配信していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	乗車スペースとされている駐車場が狭く、他事業所の車両も多い為、場合によっては駐車できず引き取り時間が遅くなってしまう事もある。	早めに到着できるよう、時間に余裕をもって迎えに行く。	職員が一人下車し、利用児を受け入れられる状況に配慮するなどの工夫をする。
2	家庭からは個別の課題に時間に、少しでも学校の宿題やわからない箇所を教えてほしいと要望があるが、本児は学校に教科書類をすべて置いてきてしまう。	学校に迎えに行った際、職員が教科書(ドリル)等がランドセルに入っているか確認する。	苦手意識を軽減させる為、楽しめる内容の学習方法を取り入れる。例:漢字のマッチング・神経衰弱
3	イベントや研修での具体的内容が保護者に周知されていない。	研修等もSNSで配信していく。	保護者説明会だけでなく、保護者参加型のイベントや保護者交流会の場を設けていけるよう、時期や内容を検討する。

○事業所名	インクルー東海教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 24日		～ 2026年 2月 3日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	2026年 2月 19日		～ 2026年 2月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○訪問先施設評価実施期間	2026年 2月 19日		～ 2026年 2月 27日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・安心して相談や情報共有ができる環境に配慮し、保護者や訪問先の意向を尊重しながら丁寧にすすめていく。	・定期的な職員研修や、実施後の報告を定着させる事で今後の支援技術や専門性の向上に繋がるよう意識していく。	・保護者、訪問先からの意見や評価をいただき、今後の支援内容や関わり方に反映させていく。
2	・利用児一人ひとりの発達段階や特性等を十分に理解し、訪問先の環境や状況に合わせた支援を提供していく。	・事前に保護者や訪問先へのアセスメントを丁寧に行い、聞き取りの中で困り感を認識し、訪問支援の方向性を明確にしながら直接介入を実施している。	・訪問先との連携を深め、継続的な支援の構築に繋がるよう情報共有を徹底していく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・職員全員が揃っている時間の確保が難しく、振り返りや報告が周知されにくい。	・午前中の利用児もいる中で、保育所等訪問の実施後の様子を周知する時間の確保が困難な状況である。記録を残し、職員が回覧できるよう徹底していく。	・訪問した翌日の午前中に、ミーティングを行えるよう非常勤職員を配置するなどして、業務内容やスケジュールを調整する。
2			
3			

事業所における自己評価総括表_児童発達支援

○事業所名	インクルー東海教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 24日		～ 2026年 2月 3日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 9名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 19日		～ 2026年 2月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎月実施される職員向けの運動研修を受講することで、利用児に期待出来る効果や発達に合わせた難易度の調整、介助の仕方や応用のポイント等、学ぶことが出来る為、より安全に運動が提供され、翌月への運動へ繋げられる。	運動研修に参加することで、補助の仕方やサポートする為の動きを理解することが出来る。	今後も運動研修に意欲的に参加し、休み等で研修を受けていない職員にも内容や補助の仕方を周知する。また、不安な点や危険個所のポイントを職員間で共有し、確認を行い安全面を十分に配慮しながら実施していく。
2	のびのびと運動できるスペースと、療育(座学)のスペースを分けて活動することにより、子ども達が落ち着いて生活できるよう配慮している。また、個別課題の時間は児発と放デイの利用児を分けて活動している。	個別課題の時間配分は、放デイの利用児より短く設定し、個々の様子を見ながら丁寧に進めている。	個別課題は個々の発達や理解力に合わせた内容を充実させる。
3	近隣にコミセンや公園・神社があり、虫探しや散歩を楽しんでいる。	新規の利用児に伝えるためにも、避難ルートを確認しながら散歩を取り入れている。	入職した職員にも、早急に避難場所等を把握してもらえよう、実際に避難経路を歩きながら確認等する時間を確保していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	パート職員の送迎時にトラブルが目立つ。	間隔が空いてしまった勤務の際は、ご自宅のルートや場所の確認をタブレット等で再確認してから実施してもらう。	職員のミスをいかに軽減させられるかを話し合い、送迎担当の職員が自信のないルートやご自宅であれば職員を交換し送迎に当たるなど対応する。
2	保護者自身も支援の必要な方である為、説明の理解等が乏しく、連絡や伝達等に苦戦している。	施設長や相談員と連携を図り、情報共有に努めている。	母親自身が理解や認識ができるよう、ひらがなでメモを渡したり、イラストを用いて連絡する。
3			